つどい

▪発　行▪
京都障害者
スポーツ
振　興　会

題字　芝田　徳造

あけましておめでとうございます

京都障害者スポーツ振興会
会長　水谷　裕

あけましておめでとうございます。

本年も皆さんのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年中は、振興会の活動に、公私とも何かとご多忙の折、ご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

振興会は、今年も全スタッフ一丸となって、全力でひとつひとつの取り組みを大切に多くの障害のある皆さんのご期待に添えるべく活動を行い、障害のある人々がスポーツ活動をし易い環境づくりを一歩でも進めるための事業を推進してまいりたいと思っております。

昨年は、この「つどい」を通しての年頭のあいさつの中で、次の４つのことについて力点を置きたいと書き、活動を進めました。

それらのことについての報告です。

ひとつ目の、振興会活動の基本の「障害者スポーツのつどい」が、半年余りの府立体育館リニューアル工事による休止は、参加者を遠ざけ、スタッフさえも遠ざけるのではという懸念は、「つどい」スタッフの努力もあり、これらを食い止めることができ、今年５月の５００回開催に繋がって全国的にも他に追随を許さない事業となりました。

ふたつ目は、「京都マラソン」で、車いすの選手にフルコースを走ってもらえるように取り組みたいと考え、当初から実行委員会で訴えて来ましたが。しかし、「第３回京都マラソン」では、全コースを抜本的に変更するという話があったので、期待していたのですが実現できませんでした。これは、私の力不足で車いすの選手の皆さんに申し訳なく、今年も実行委員会に働きかけて行こうと思います。

三つ目は、障害のある子ども達のスポーツ活動に眼を向け取り組みたいことです。

７月３０日という暑い時期でしたので半日の事業として、夏休みを利用し京都市立深草小学校をお借りして、京都市内の小学校育成学級児童を対象に「障害のある子どものスポーツ教室」を開催しました。

市内の小学校育成学級の児童を対象にしたこのような取り組みが無いことで、未経験のスポーツ種目や指導法に各自がチャレンジ出来たことに、参加した児童だけでなく、引率の教師や、保護者などからも好評でした。

これからも、積極的に果たすべき役割を認知と自覚し、スポーツの楽しさを届けるばかりでなく、障害のある子ども達のスポーツ活動のあり方を再考し、取り組みを拡げて行きたいと考えています。

最後の四つ目は、『スポーツ基本法』が成立して３年余り。

『スポーツ基本法』の認知と実効性の確認を目的に、府内２２０余の公的・民間などのスポーツ施設対象に、単に、障害のある人のための福祉の街づくりをベースとした建築的配慮のみならず、そのスポーツ施設における人的整備、さらには、ソフト面の充実等を調査し、現在、回収を終えて、分析をしているところです。

（裏面へ続く）

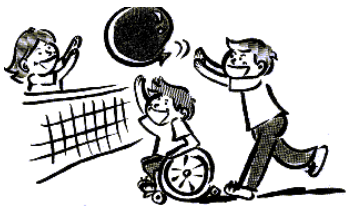
行事予定					来月のつどいは
	1月	13（火）	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	
		17（土）	京都府ゆうあいボウリング大会	亀岡アルプラザボウル(予定)	
		25（日）	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	第497回
			第12回京都障害者チャンピオン卓球大会	京都市障害者スポーツセンター	2 / 8
	京都障害者スポーツ振興会ホームページ　TEL／FAX075－712－7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/（2014年11月23日に一部更新）				第2日曜日

（表面より）

調査の結果を持って、「どんな障害があっても…」「人数に関係なく…」「どこのスポーツ施設でも…」の目標達成に向け、障害のある人々が実践できるスポーツ環境の整備を、さらなるに意識づけを求めて行きたいと思っています。

今年も、京都障害者スポーツ振興会を立ち上げた初心に回帰し、運動体であるべき姿を忘れることなく、いつものとおり、振興会スタッフはもとより、多くの人々と手をたずさえてどっぷりとスポーツにはまり込み、「楽しいスポーツ活動」を、さらに多くの障害のある人々に伝えて行きましょう。

皆さんのご協力が必要です。是非、お手伝い下さい。



つどい300　新聞記事

第３種郵便物認可　　京都ス ポ

ひろば

府立体育館のスポーツ振興事業として毎月１回開催されている「障害者スポーツのつどい」が今月で300回を数え、同記念の「つどい３００」が同体育館、京都障害者スポーツ振興会共催で14日、体育館の全フロアを会場にして開かれ、障害のある人、介護者やボランティアら約400人が伸び伸びと午後のひとときを過ごしました。

ふれあい重ね

生き生き 伸び伸び 300回

25年間延べ3万人参加

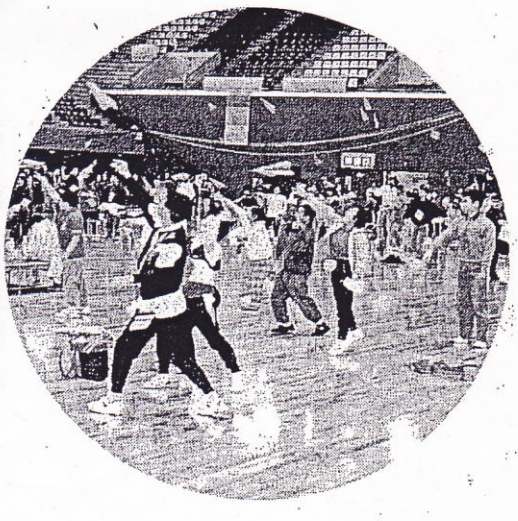
府立体育館「障害者スポーツのつどい」

みんなで大風船をついてはしゃぐ参加者たち（府立体育館）

「障害者スポーツのつどい」は府立体育館開館翌年の昭和四十七年三月から毎月一回、普段スポーツに親しむ機会の少ない障害者の人たちに少しでも接してもらえれば…と体育館、振興会が共同で開催した事業。サーキット、トランポリン、ビームライフル、卓球、盲人卓球、卓球バレー、車いすハンドボールなどを内容に開催、この二十五年間で延べ三万人を超える人が参加しています。

卓球バレーや車いすハンド　笑顔で汗、交流弾む

「つどい３００」は午後一時半から開かれ、芝田徳造前振興会長の開会宣言に続いて、北山宗宏館長、内山茂生振興会長があいさつ。全員がリズム体操で準備運動後、各スポーツコーナーに散らばりました。

第一、第二競技場や二階ホワイエを全面開放した会場には、車いすハンドボール、卓球バレーなど普段のスポーツのほか、振興会の指導員さんらが工夫した円盤をターゲットに投げ入れるゴルスビー、四すみから中心の得点ゾーンにボールを転がすランサーターゲッタや、コースをタイム申告で回るチャレンジ・ザ・車いすなど十数種類のスポーツ、ゲームコーナーが設けられ、参加者たちは参加したコーナーでシールを張ってもらったり、特設ラウンジで一休みしたり…。

最後には障害者スポーツの発展とつどいの三百回を記念する手作り紙飛行機を「みんなで飛ばそう三百機」、三個の大風船を各百回ずつ「みんなでつこう３００回」を全員で楽しみ、みなさん充実した表情。大人も子供も一緒に生き生きと力を合わせ、声を掛け合う姿に、指導やお手伝いに当たった振興会、体育館関係者約百人も「明るい笑顔を見ると、私たちも張り合いがあります」とうれしそうでした。